

**球磨川大水害は住民主体の流域治水  
の必要性を証明した！**

**2021年7月3日**

**参議院議員（前滋賀県知事）・嘉田由紀子**

**（資料：熊本日日新聞、滋賀県）**

**（協力：「7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会」）**

# 今日のお話 (日本の河川政策と球磨川水害)

**(1) 日本の河川政策の歴史と、なぜ滋賀県から流域治水が始まったのか？**

**(2) 気候変動で激甚化する水害への対応、その前に過去50年の国土の変貌による水害(高橋裕)発生分析を！**

**(3) 何が生死を決めたのか？球磨川豪雨の溺死者調査から川辺川ダムがあっても、球磨川水害溺死者のほとんどは救えなかったのでは？**

**(4) 球磨川大水害こそ、住民主体の流域治水の必要性を証明**

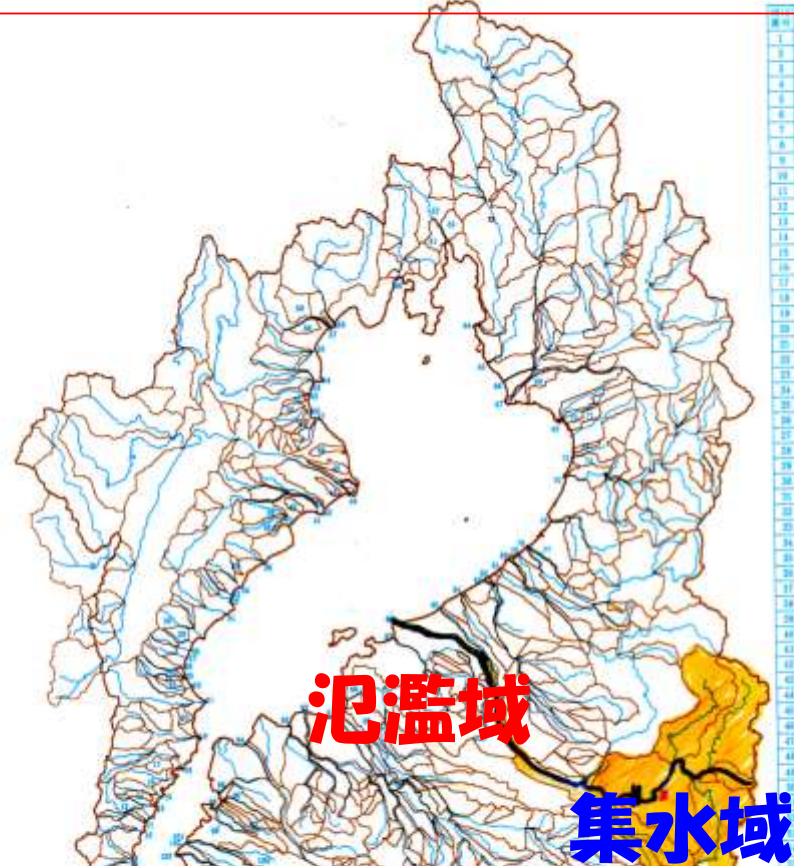
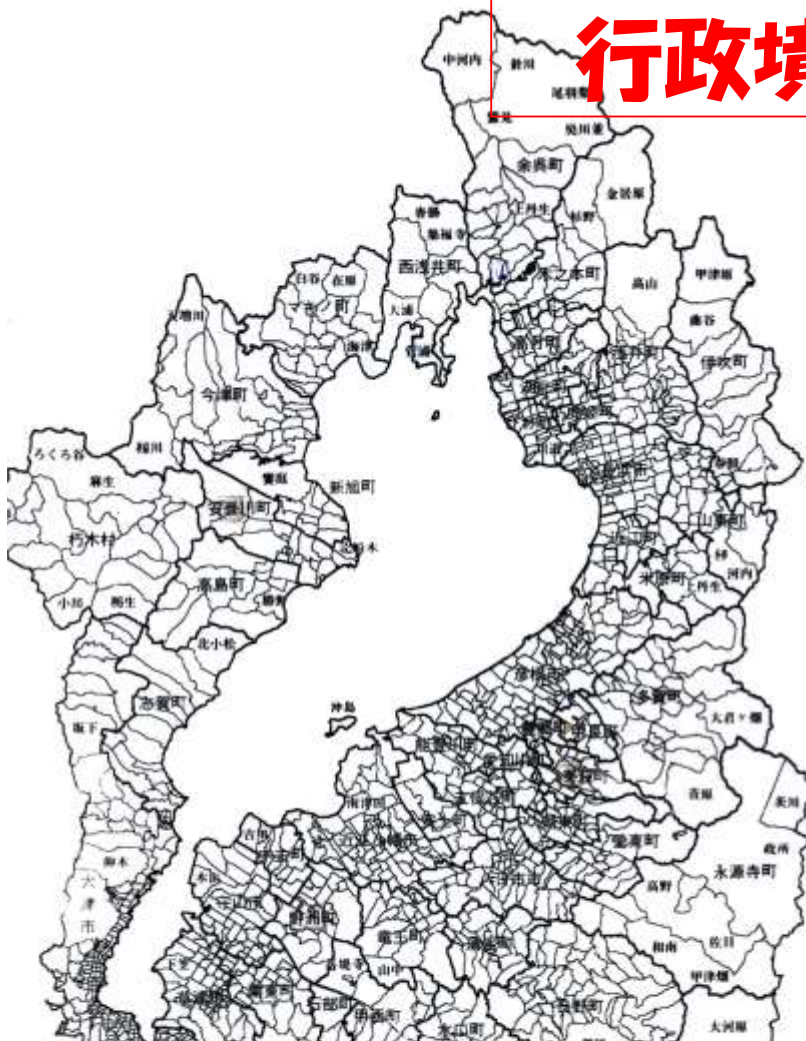
**(1)**

**日本の河川政策の歴史と、  
なぜ滋賀県から流域治水がはじま  
ったのか？**

# 1300年前の律令時代の郡の 成り立ちは河川流域別に



# 行政境界は水系境界と連動



**河川流域別政策(バイオリージョンモデル)は  
日本全体の歴史と風土に埋め込まれている。  
球磨川流域でも基本は共通**

地域境界

水系境界

滋賀県地域環境アトラス

# 滋賀県の自治組織(地域コミュニティ)の変遷

(昭和43年)50市町村

(明治22年)195町村



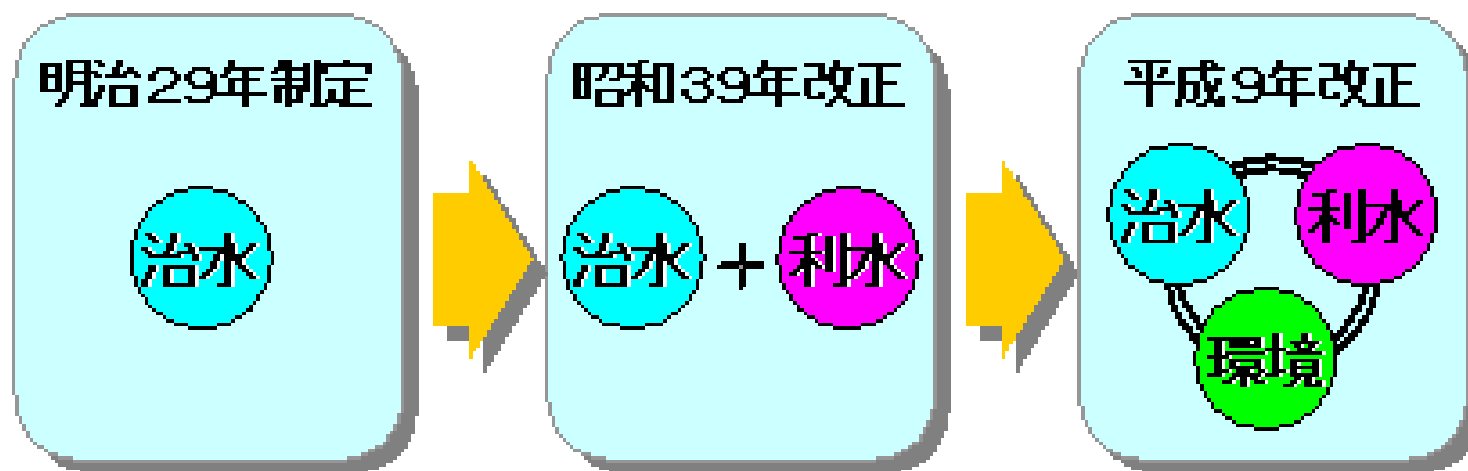
**<現在> 19市町**  
**明治22年195町村、江戸時代1679町村**

- \* 菅浦、今堀などの村落惣村自治、堅田などの町の自治
- \* 戦国時代の地域政策: 信長・秀吉の検地(土地制度)による村落共同体の地理的境界を確定⇒現代の土地・税制度に引き継がれる。
- \* 信長の道路・橋梁などのインフラ整備も行政の基本

**→日本中、水田稲作地域はどこも、律令時代からの土地、水制度をもっており、日本全体が水系バイオリージョンといえます！球磨川流域も共通！**

# 日本では明治・昭和・平成と時代の 変化にあわせた河川法改正

- 治水・利水・環境の総合的な河川制度の整備
  - 河川環境の整備と保全
  - 地域の意見を反映した河川整備の計画制度の導入



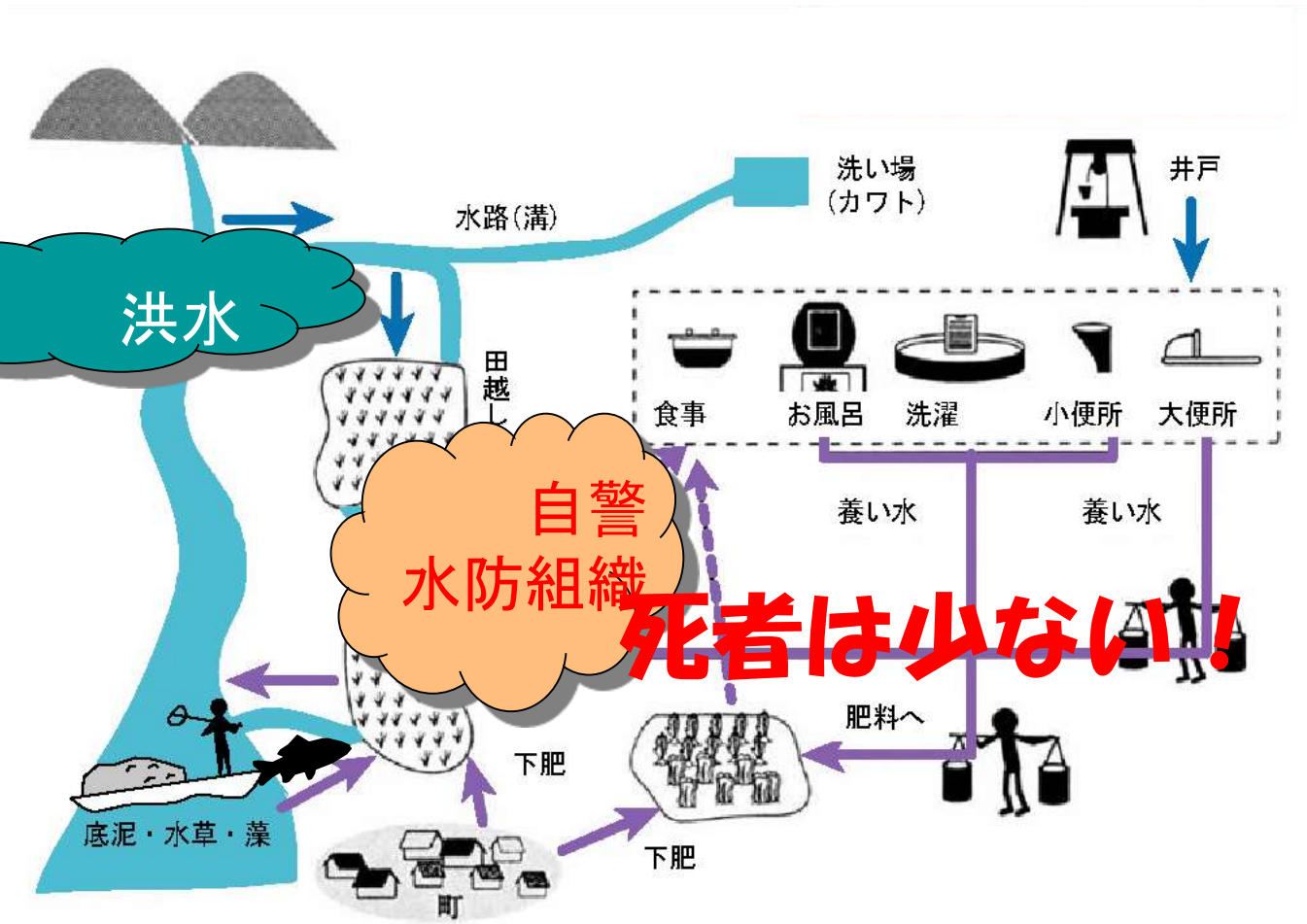
河川法改正の流れ

# “近い水”が生きていた時代

循環と使いまわし、自己管理の時代

■ 水システム模式図 江戸～明治中期(昭和30年代まで)

河川からあふれることを前提に流域共同体で水害対応



水の使い回し・循環

出典: 嘉田由紀子:『環境社会学』、岩波書店、2002、P15



# かつては住民の間に「災いをやり過ぎず知恵」 = 災害文化 = レジリエンスが存在

かさ上げされた住宅



## 倉敷市真備では水 害予防組合の時代

地域  
継続

災害に見  
舞われて  
も...

災いをや  
り過ぎず  
知恵

小さな洪  
水を少し  
ずつ体験

洪水後も自費補修

(昭和30年代まで)

防災施設が不十分

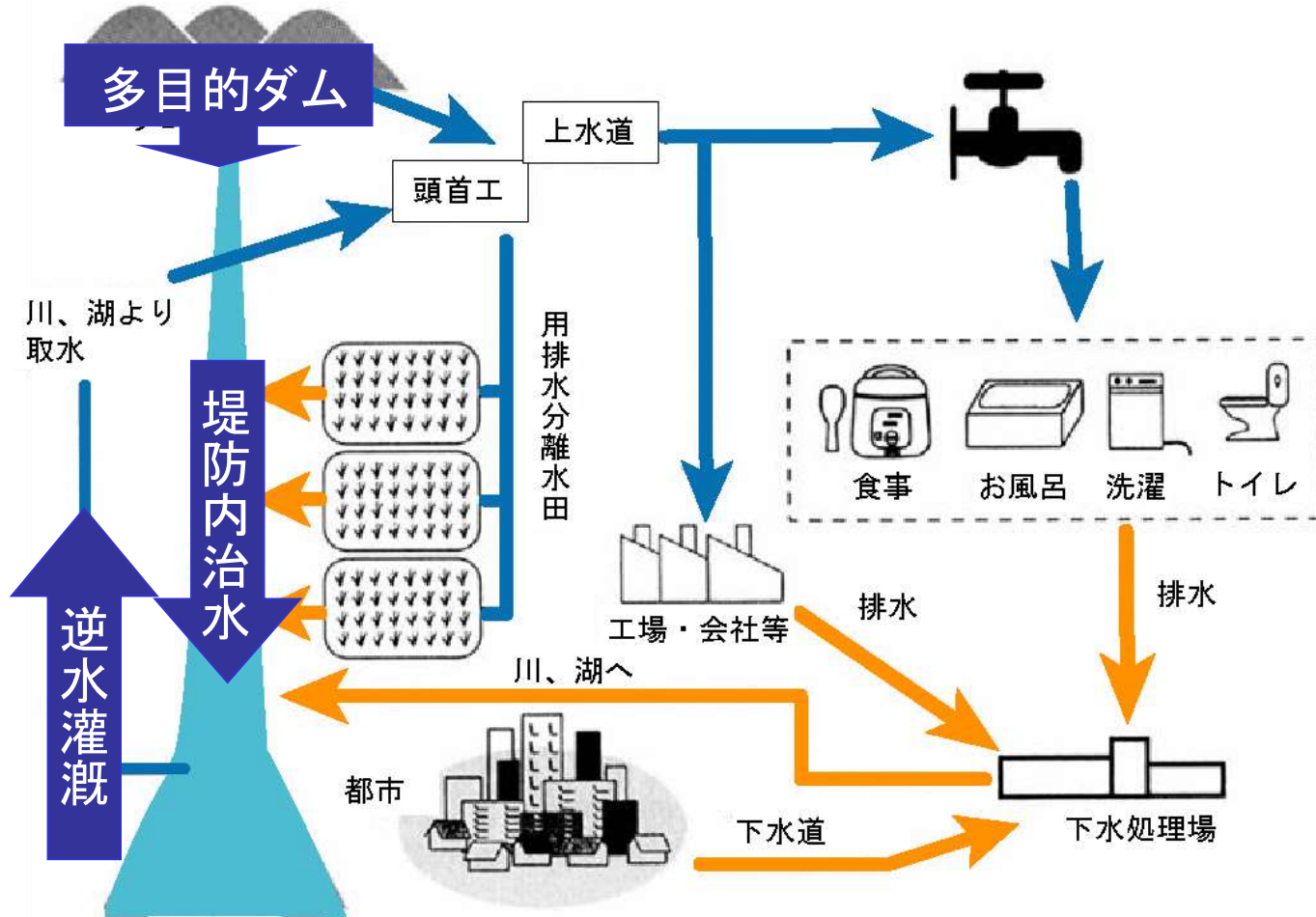


# “遠い水” による水系閉じ込め型水システムの完成

(国・県など上位の行政体に管理権が移行)

■ 水システム模式図 平成年代 水の使い捨て

えな  
ない  
縦割  
り行政  
のつら  
さを  
河川に  
水を閉  
じ込め  
ざるを



水の  
使い  
捨て

出典：嘉田由紀子：『環境社会学』、岩波書店、2002、P15

# 「人為的に作られた安全、行政依存度が高まると、人間・地域側の弱さが高まる」問題

防災施設整備

都市化の進行

水害頻度減少

災害文化の伝承途絶

安全神話

**洪水死者数が増加！**

行政依存

設計基準  
を超える  
洪水

行政依存意識が高まり

水害に脆弱な住民

治水対策はすべて「公費  
支弁」ゆえ政治依存に<sup>1)</sup>

# 徹底した地域歩きでわかったこと (生活知の再生と復活)

～地域生活現場を徹底して歩き、耳を傾けることで～

■ 琵琶湖周辺の人びとの暮らしと水とのかかわりを湖辺の各地を歩きながら、昭和30-40年代のちょっと昔の話を徹底して聞き書き。

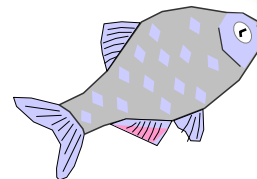
■ 琵琶湖淀川水系水害被害地調査、40ヶ所

■ 当事者としての意識、人びとがこだわりをもっていて、今からでも復活したいと思っているのは水質そのもの以上に水とのかかわりだった。

■ つまみ問題そのものが属地的、属人的に多様だった。

■ 水害被害は多いが人は意外と死なないことを発見。ソフトの社会的対応が充実。

■ そして人びとの願望はハード面の整備にプラスして川との関わりの豊かさを求めている。

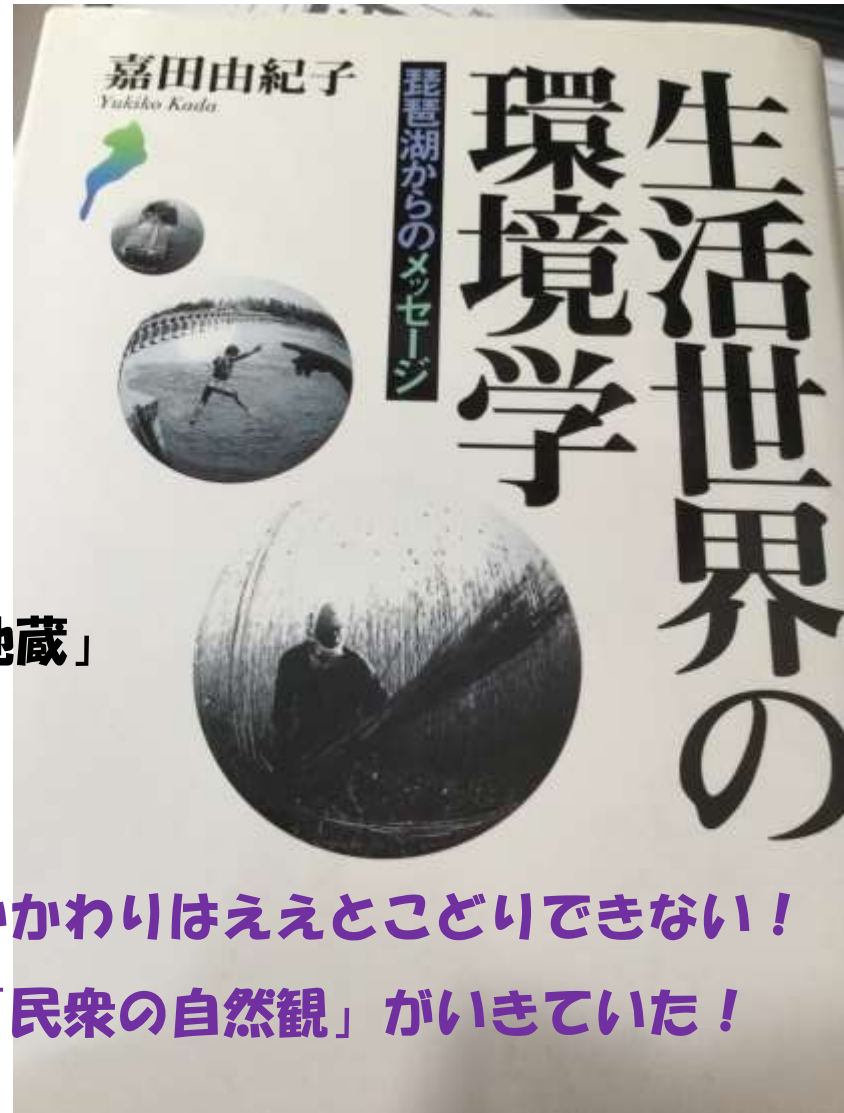


# 洪水は多いが人が死なない治水 —高島市マキノ町知内村モノグラフ—

大正2年、村自前の堤防工事完成記念写真



知内川の「切所」に今もたたずむ「水竹地蔵」



# 琵琶湖淀川水系40ヶ所で、3世代交流型水害史調査 (なぜ人が死んだのか？被災者調査)



# 過去の浸水被災地や霞堤が新興住宅地に！ 住民は過去の被災を知らされず無防備に！

昭和28年13号台風安曇川決壊

→今はリバーサイドニュータウン

愛知川沿いの霞堤は、新興住宅地のドリームランドに！



斎藤源一、1953年10月



上と同じ場所、2021年6月



# 平成河川法の理念実現のため淀川水系流域委員会での提言(2001年から400回の議論と現場訪問)

## (1) 河川環境の保全・再生の新たな理念

- ・川が川をつくるのを少し手伝う河川整備に転換
- ・環境変化については**予防原則**に基づいて総合判断を行う
- ・健全な生態系なくして**人類の未来はない**

## (2) 治水のあらたな理念

- ・計画規模を上回る洪水(超過洪水)をふくめいかなる大洪水に対しても壊滅的被害を回避するためできるだけ破堤しない河川対応と破堤した場合の被害をできるだけ軽微にしようとする流域対応を実施する(定量治水から非定量治水へ)

## (3) ダムについての新たな理念

- ・ダムは自然環境に及ぼす影響が大きいため、**原則として建設しない**
- ・ダム以外に実行可能で有効な方法がないことが客観的に認められかつ住民の社会的合意が得られた場合にかぎり建設

## (4) 住民参加・協働の新たな取り組み

- ・住民等の参加による河川管理推進のため、一定の権限と義務を付与した**河川レンジャー制度の創設**
- ・多様な住民・住民団体・地域組織等、関係行政・運営諸機関等の河川管理活の拠点としての**流域センターの創設**



# 淀川水系流域委員会からの今本元委員長長のダム関連、流域治水の発信

「寄附者様専用コンテンツ」

## ダムが 減ぼす 国を

京都大学名誉教授・  
淀川水系流域委員会元委員長  
**今本博健**  
+



滋 賀 民 報 1972(昭和47)年5月30日第3種郵便物認可 第2486号

### 大戸川ダム

#### 日本共産党県議団が 今本氏招いて学習会

国土交通省が凍結している大戸川ダム建設(大津市を三百メートル大遶り)の知事が推進しようとしている問題で、日本共産党滋賀県議団が19日、大津市内で元淀川水系流域委員会委員長今本博健京都大学名誉教授を招いた「大戸川の治水を考える学習会」を開き、参加した。

住民らが「ダム建設より河川改修を急ぐべき」と話し合いました。学習会に先立ち、同党の黄野瀬明子県議の案内で、ダム予定地や洪水が心配される流域、移転集落などを見学して回りました。

学習会では今本氏が「大戸川ダムの必要性を再検討する」と題し



大戸川下流域を視察する今本氏(右)ら(19日、大津市)

### ダムより流域治水を

講演。ダム過剰を説明、ダム推進を報告。大戸川の流量など、値が観測値と比べても川などから治水(浸水被害)の危険性な流の危険性を報告。大戸川の流量など、値が観測値と比べても川などから治水(浸水被害)の危険性を報告。大戸川の流量など、値が観測値と比べても川などから治水(浸水被害)の危険性を報告。



# 滋賀県知事選挙「かだマニフェスト2006」 でのダム凍結で流域治水を約束

- 丹生、大戸川、永源寺第2ダムの県支出金合計200億円以上が、県営の芹谷ダム、北川第一、第二ダム建設についても今後数百億円以上の県支出金が必要です。この**6つのダム建設計画について凍結**します。
- 以下の代替案を提案して県民の皆さんとの**対話を通して見直**します。
- 治水については、ダム以外の方法（堤防強化、河川改修、森林保全、地域水防強化）、すなわち「**流域（地域密着）型治水**」により対応します。
- 利水も、ダム以外の方法、**水の循環再利用システム**を構築します。
- また、公共事業の地域振興効果として、ダムのような大型公共事業は必ずしも**地域経済を長期的に潤す**ものではありません。流域（地域密着）型の河川改修や農業水源確保事業のほうが迅速な対応、地元の業者が直接工事に参加でき、しかも費用が安くて済むなど**脱ダムに関する代替案**を提言します。
- あわせて、ダム建設を前提に集落移転を余儀なくされた**地域の人々への謝罪と社会的配慮**を十分に行います

# 滋賀県の流域治水政策

## 基本的な考え方



しがの流域治水は、どのような洪水にあっても、

- ① 人命が失われることを避け（最優先）、
- ② 生活再建が困難となる被害(床上浸水)を避けること、を目的として、

自助・共助・公助が一体となって、川の中の対策に加えて川の外の対策を、総合的に進めていく治水

# 流域治水政策は全ての浸水源を一体化 『地先の安全度』 づくりがまず基本

## ～暮らしの舞台、生活者視点からの水害リスク評価～

- 流域やはん濫原での対策(まちづくり等)もあわせた治水を検討する場合、「河川施設ごとの(治水)安全度」ではなく、暮らしの舞台である「地先の安全度」を調べておく必要がある。サービス供給側ではなく被害を受ける被災者、生活者、事業者視点からの防災・減災視点。

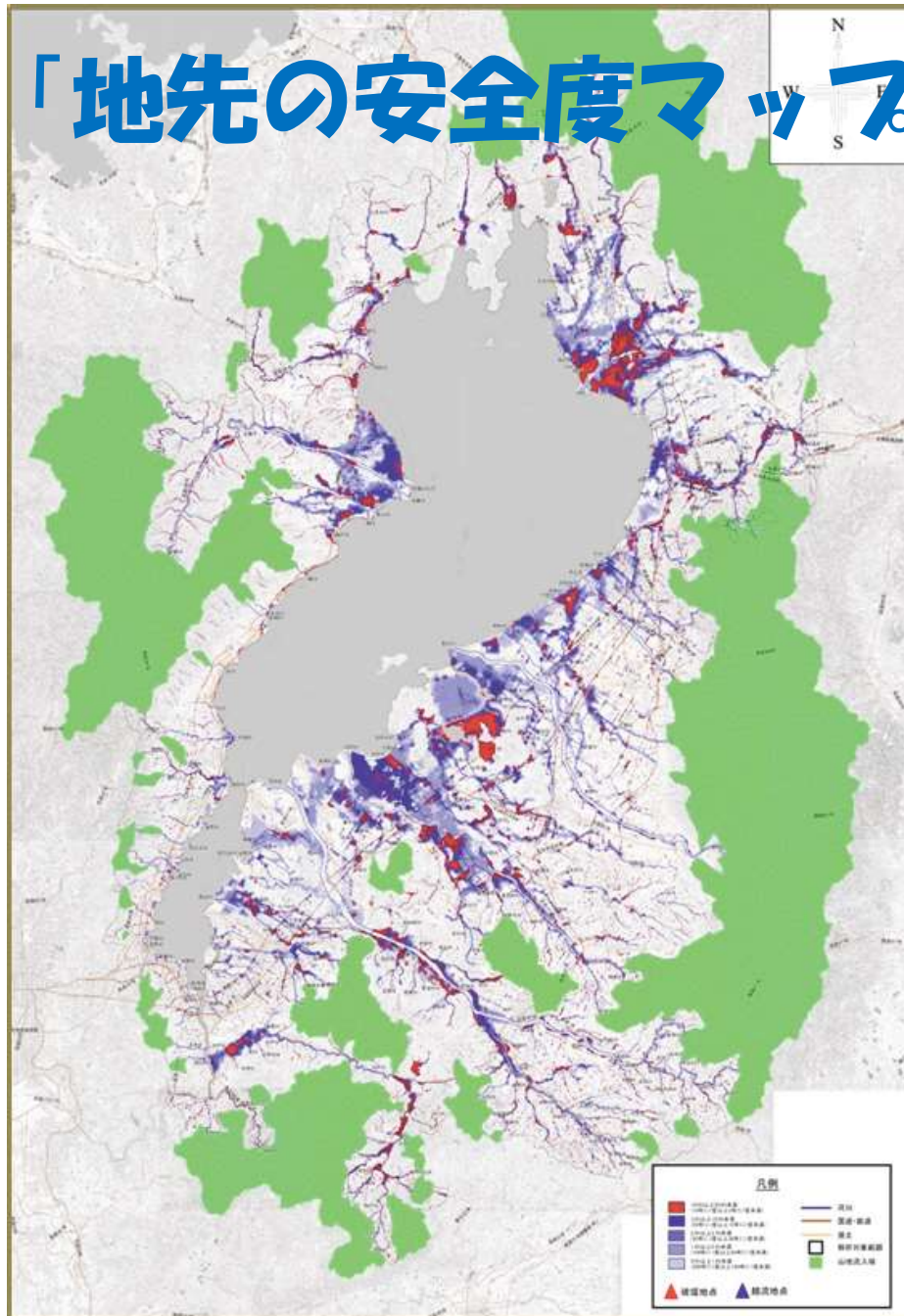
(「地先の安全度」の調査にあたって)


- 生活圏である流域・はん濫原を取り巻く、河川や水路からの複合的なはん濫を考慮する。(個別省庁部局別の縦割りではなく、横串政策)
- 小さな洪水(10年に一回程度)から、最大級の洪水(200年以上に一回程度)まで、さまざまな状況を想定しておく。



# 「地先の安全度マップ」の公表をめぐって

- ・**県議会や市長会からの抵抗**
- ・「地価が下がる」「知事は地価がさが  
る責任をとれるのか！」
- ・**反対する人は土地を売る人：本家筋**  
土地を売買の対象と考える人
- ・一生に一度、家を買えるかどうかと  
いう新住民、労働者の立場からはス  
クの高い土地を知らずに購入したくない。**分家筋**
- ・**リスクを知らせないのは行政の不作  
為ではないか？**



 Mountain area  
(Zone1)

# とどめる

# 家づくりでも治水

## 先人の知恵

- 住宅の嵩上げ



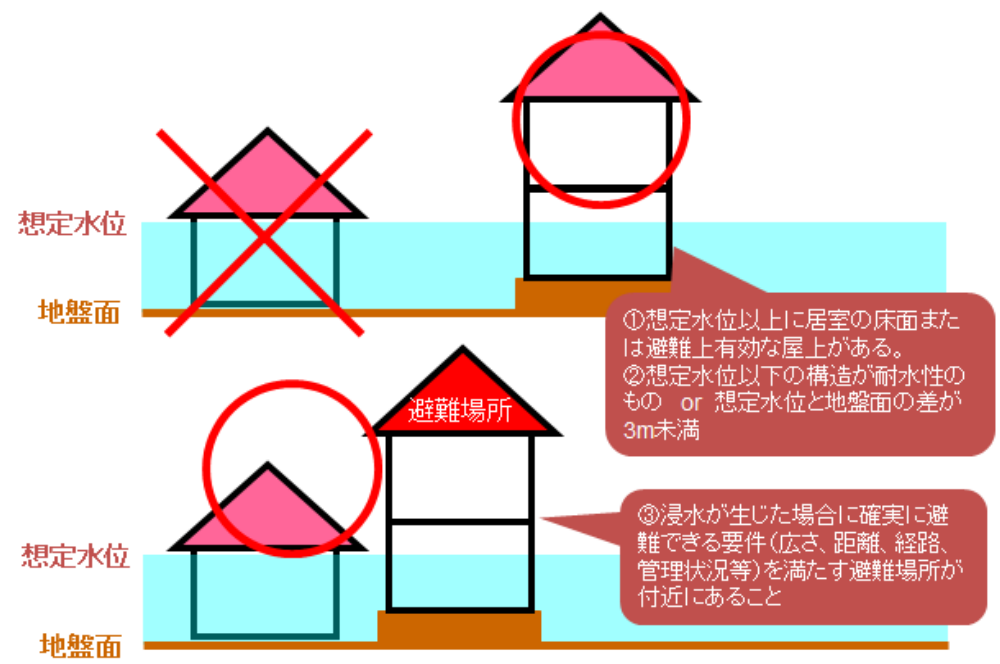
## 滋賀県流域治水条例(第13~23条)

- 知事は、水害リスクの高い区域を「浸水警戒区域」に指定し、区域内での住居等の建築に際しては耐水化構造をチェック(第5章)

浸水が始まっていたら、状況に応じて建物の2階以上や近所の高い建物へ避難しましょう。



↑京都市防災マップより



建築規制とは、知事が①~③を確認する制度のことです。

# そなえる

# 人育てでも治水

## 先人の知恵

### 子どもがキーパーソン！！



## 滋賀県流域治水条例(第30～34条)

- 県は、浸水被害を回避・軽減するための調査研究、教育等に努める
  - 水害に強い地域づくり協議会
  - 出前講座、水害履歴調査



# 浸水警戒区域指定により、宅地 かさ上げなどに県費投入

- ・2017年から2021年までに、米原市村居田地区など、5ヶ所で警戒区域指定
- ・200年確率で3メートル以上の浸水想定地域は全体で50ヶ所ある。まだ1割しか、警戒区域指定できていない。

→なぜ？

- ①滋賀県は水害が少ない（全国で47番目）、住民に危機感がない
- ②三日月知事、市町首長も自民党と手をむすび、ハード依存意識高い（大戸川ダム復活）



**(2)**

**気候変動で激甚化する水害への対応、その前に都市化・近代化による影響を！**

**2018年西日本豪雨による倉敷市51名  
溺死、肱川9名死亡  
そして、2020年7月球磨川豪雨**

・**2017年九州北部豪雨**で朝倉市などで41名死亡←森林破壊

・**2018年西日本豪雨**による倉敷市51名溺死←都市化による分家水害  
(ダム津波:肱川野村ダム)

・**2019年には東日本で死者90名**  
←都市化と森林破壊両方

・**2020年球磨川豪雨**65名死亡、  
←都市化と森林破壊両方

# 2017年九州北部豪雨は山地崩壊、森林破壊、木材流出、41名死亡、在宅死亡

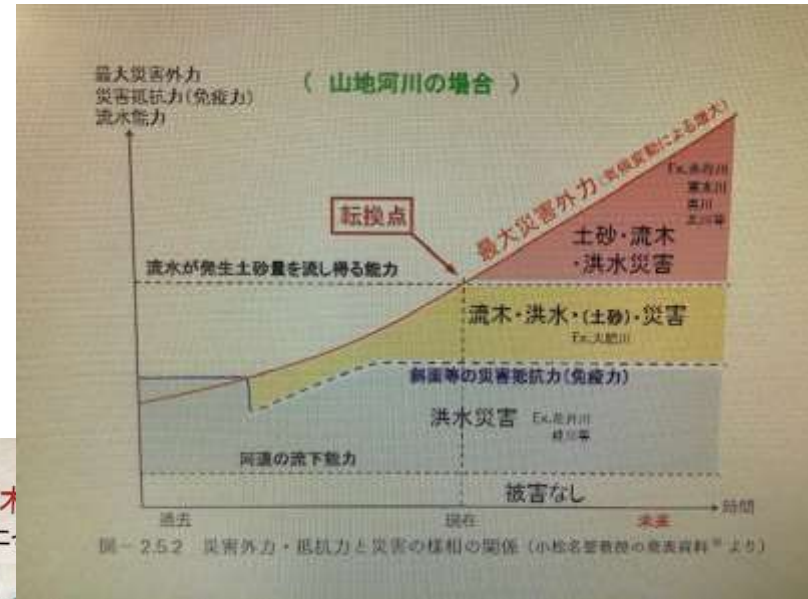
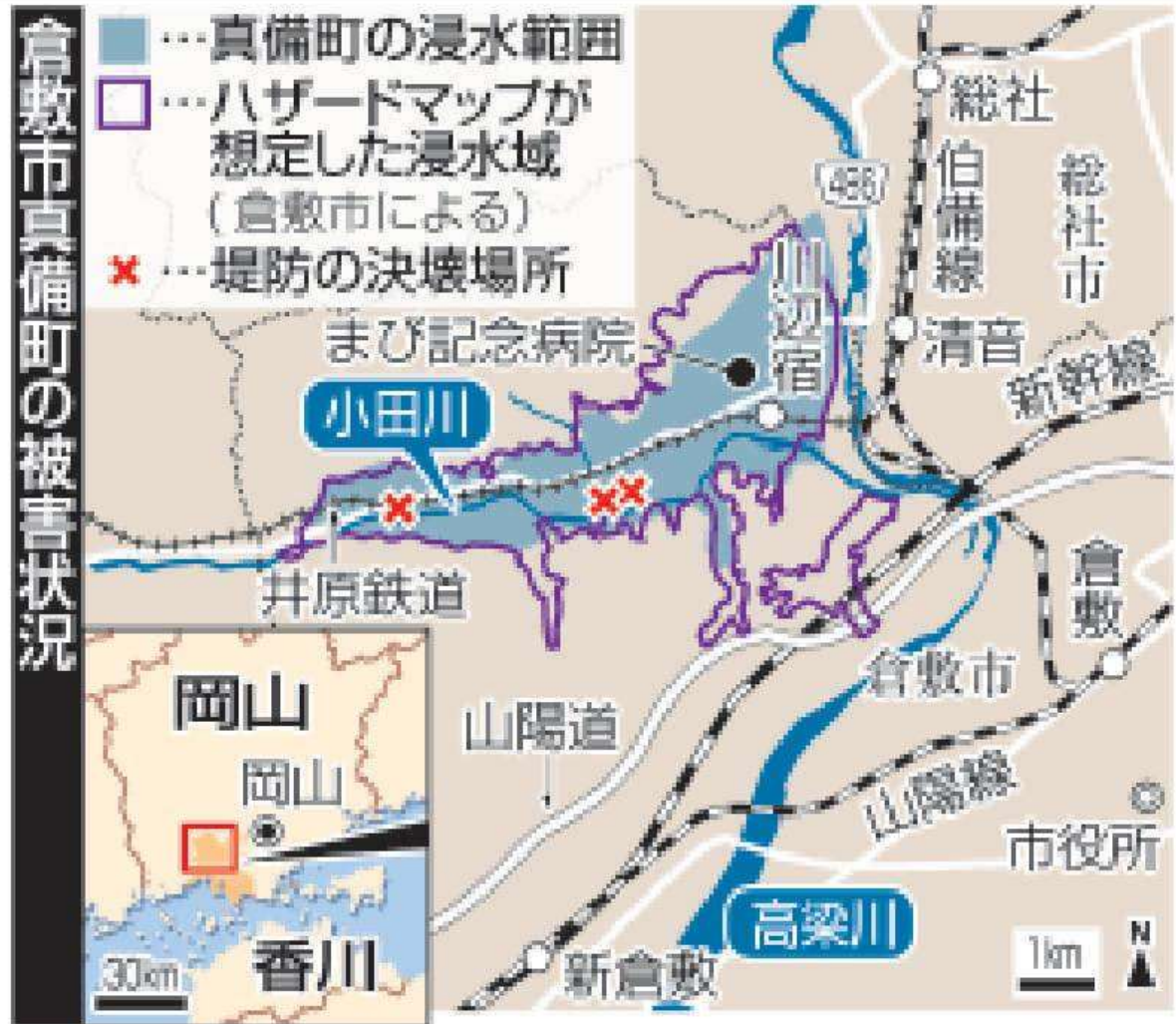


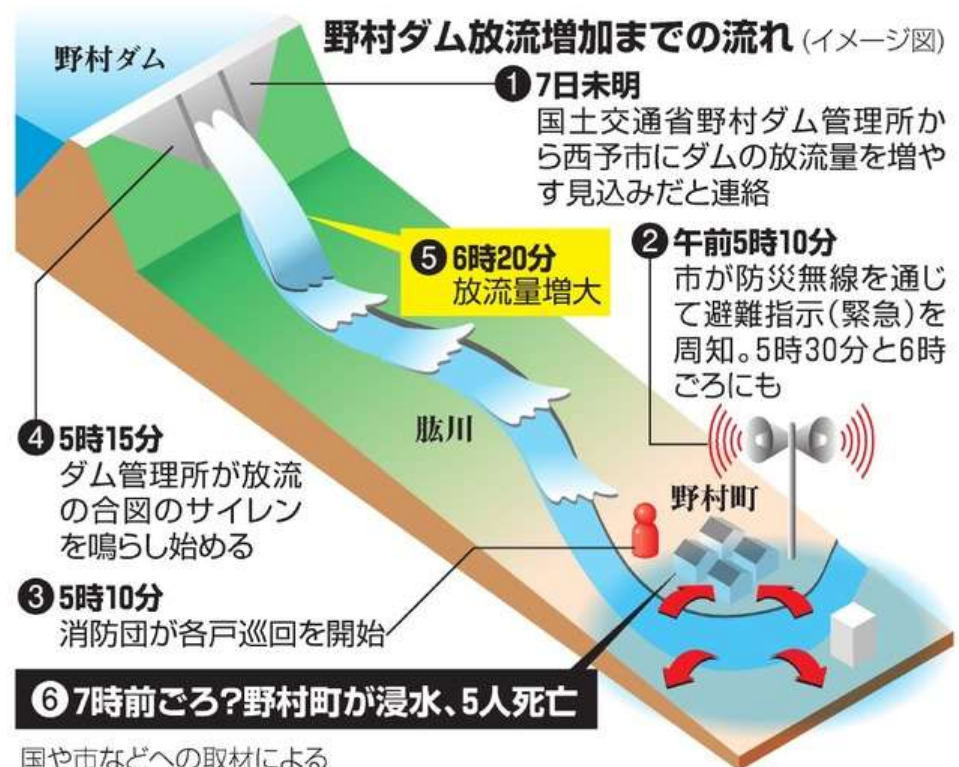
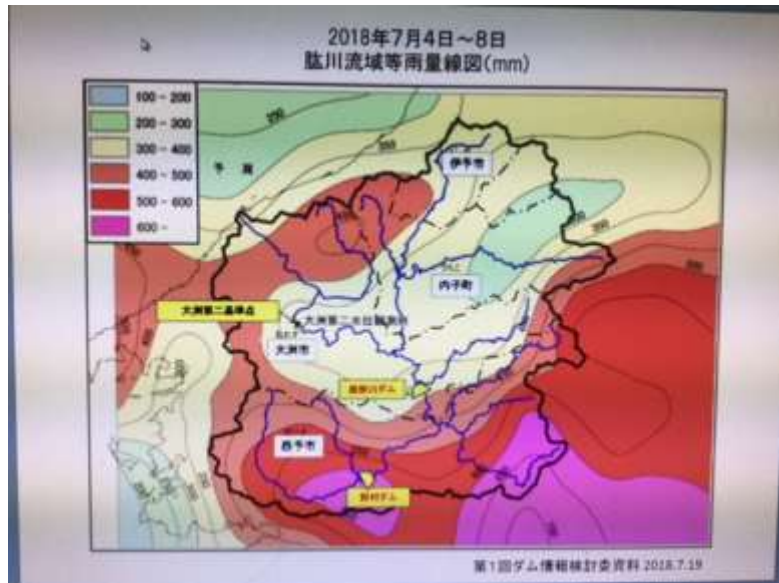
図-2.5.2 災害外力・抵抗力と災害の様相の関係 (小松名智教授の発表資料より)

# 2018年7月西日本豪雨 岡山県倉敷市真備地区の被害

- ・ 水害常襲地の  
宅地開発  
都市化による  
新住民被害
- ・ 51人の溺死者  
(分家の水害)
- ・ 危険を知らずに  
居住、行政も  
危険を知らせず



# 2018年、愛媛県肱川ではダムの緊急放流で死者9名



国や市などへの取材による

## 5名の死者の内訳

- ・入江印刷主人(59歳):車で避難途中
- ・小玉豊屋さんおばあちゃん:家の中で
- ・70代の男性(?):家の前で
- ・70代と80代の夫婦:家の中で

# 国もマスコミも温暖化の影響ばかりを強調するが！



昨年の7月豪雨で氾濫した球磨川  
＝熊本県球磨村

## 温暖化 想定雨量1割増

国土交通省が、全国100の1級水系について、気候変動に伴う治水計画の全面見直しに着手した。平均気温が上昇する前提で、想定する雨量を現在の1割増しに設定。ダムも堤防などもインフラ強化に加え、安全場所へ居住を促す取り組みも進めるが、財政面や住民との合意形成も課題が多い。

国は、水害と治水対策の前提となる「河川整備基本方針」を定めている。過去にその範囲で降った最大雨量を基に、100年に1回ほどの頻度で起る暴雨時の「ピーク雨量」を算定し、それを超えるような整備計画を立ててきた。

しかし、近年は想定を上回る豪雨が

相次ぐ。昨年の7月豪雨で氾濫した球磨川水系では、熊本県人吉市で「毎秒7千」と想定していたピーク雨量を上回る毎秒9000を記録した。

雨の降り方の変化は全国的に明らかで、1時間に50mmを超える短時間強雨は、1976～85年には年平均23.6回だったが、2011～20年では33回増えた。

### インフラ強化や土地規制 財政面・住民

「気候変動が水害に影響する可能性は昔から指摘されていたが、近年はそれが現実になってしまっている」と国交省担当者は危ぶむ。

地球温暖化に関するパリ協定は、産業革命前と比べた気温上昇を2度未満にする目標を掲げている。近年確立された予測モデルでは、上昇が2度だった場合、降雨量は現在の1.1倍（北海道は1.15倍）になるといふ。

国交省は、この降雨量を前提に、水系ごとに流量の見直しに着手した。5



昨年の7月豪雨で氾濫した球磨川  
＝熊本県球磨村

は限界がある。

今年4月に成立した「流域治水」関連法では、浸水の危険が著しく高いエリアの住宅建築を許可制とするなど、土地の利用規制に踏み込んだ。ただ、住民や事業者との合意形成が不可欠で、どこまで進むかは未知数だ。

国交省幹部は「予算面にはどうしてしきれるのか、インフラ整備でカバリの住み替えが必要なのか、地域ごとに議論を深めてもらう必要がある」と

## 規制 財政面・住民合意課題に

4回に増えた。「気候変動が水害に影響する可能性は昔から指摘されていたが、近年はそれが現実になってしまっている」と国交省担当者は危ぶむ。

地球温暖化に関するパリ協定は、産業革命前と比べた気温上昇を2度未満にする目標を掲げている。近年確立された予測モデルでは、上昇が2度だった場合、降雨量は現在の1.1倍（北海道は1.15倍）になるといふ。

国交省は、この降雨量を前提に、水系ごとに流量の見直しに着手した。5

想定流量が増えれば、堤防のかさ上げや川幅の拡張などが必要になる可能性もある。球磨川の支流・川辺川のように、過去に凍結されたダム建設計画が動きたすケースも出ているが、限られた財源の中、ハード整備には一定の時間が必要で、インフラのみに頼るに

京都新聞 2021年  
6月28日

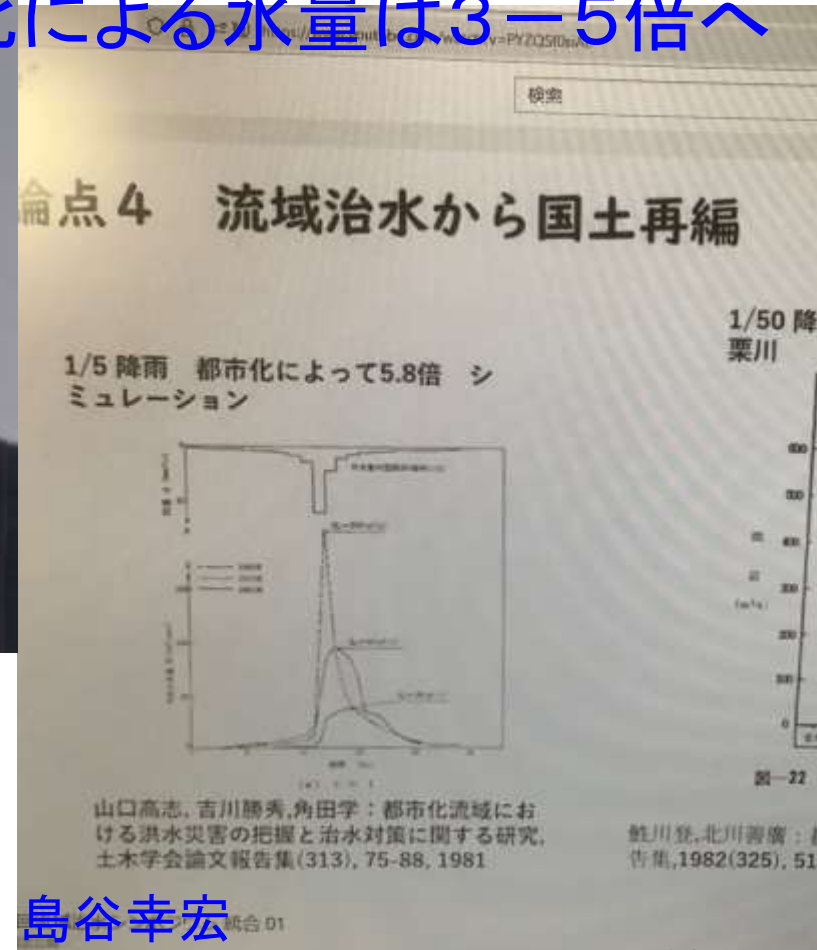
# 過去50年の国土の変貌こそ基本 構造問題—都市化と森林破壊



高橋裕著

1971年初版

都市化による水量は3—5倍へ



島谷幸宏

(2021年、5、31流域治水シンポにて)

# 実は近代化以降**150年**の日本の河川政策の変化、日本の自然共生文化**1300年**の思想・哲学と連動！



2020年毎日出版文化賞、  
2020年土木学会出版文化賞を受賞！



**(3)**

**何が生死を決めたのか？  
球磨川豪雨の溺死者調査から**

**川辺川ダムがあっても、  
球磨川水害犠牲者50名の命は  
ほとんど救えなかったのでは？**

**国土の変貌(都市化、森林破壊)が  
球磨川流域に集中**

# 球磨川水害現地共同調査 —社会学者と地元被災者との共同で—

2020年7月25-27日、10月1日-2日、12月7-10日、2021年1月3-7日

(1)何が生死を決めたのか？球磨川  
での50名の犠牲者の当事者調査

(2)熊本日日新聞がすべての犠牲者の  
名前居住地など公表、画期的情報  
公開、真備では個人情報なし

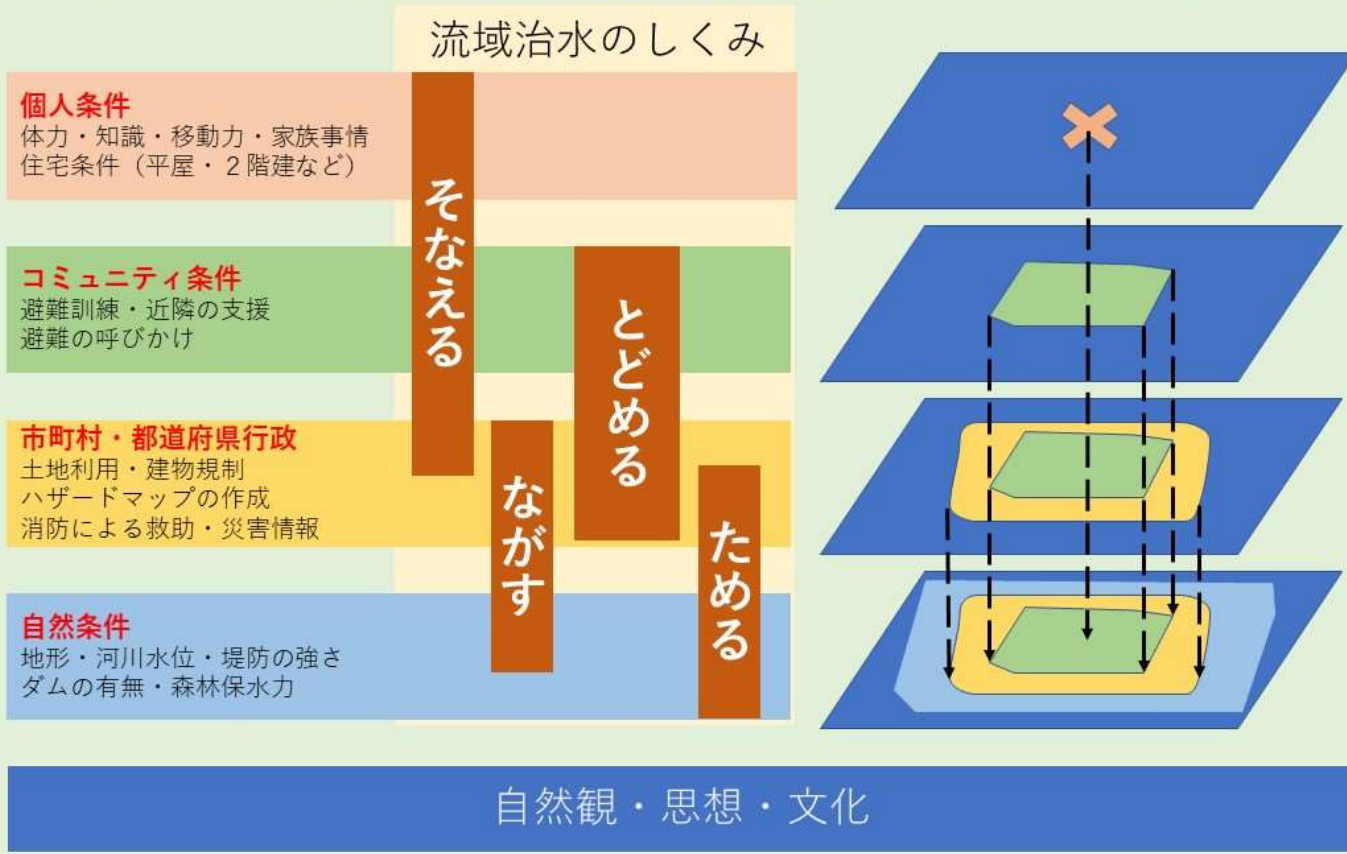
(3)外的ハザードに対して個人の  
脆弱性(移動力、住宅事情、近隣との  
避難協力)などを精査

(4)川辺川ダムができていたら  
どこまで死者が減らせたかを推定



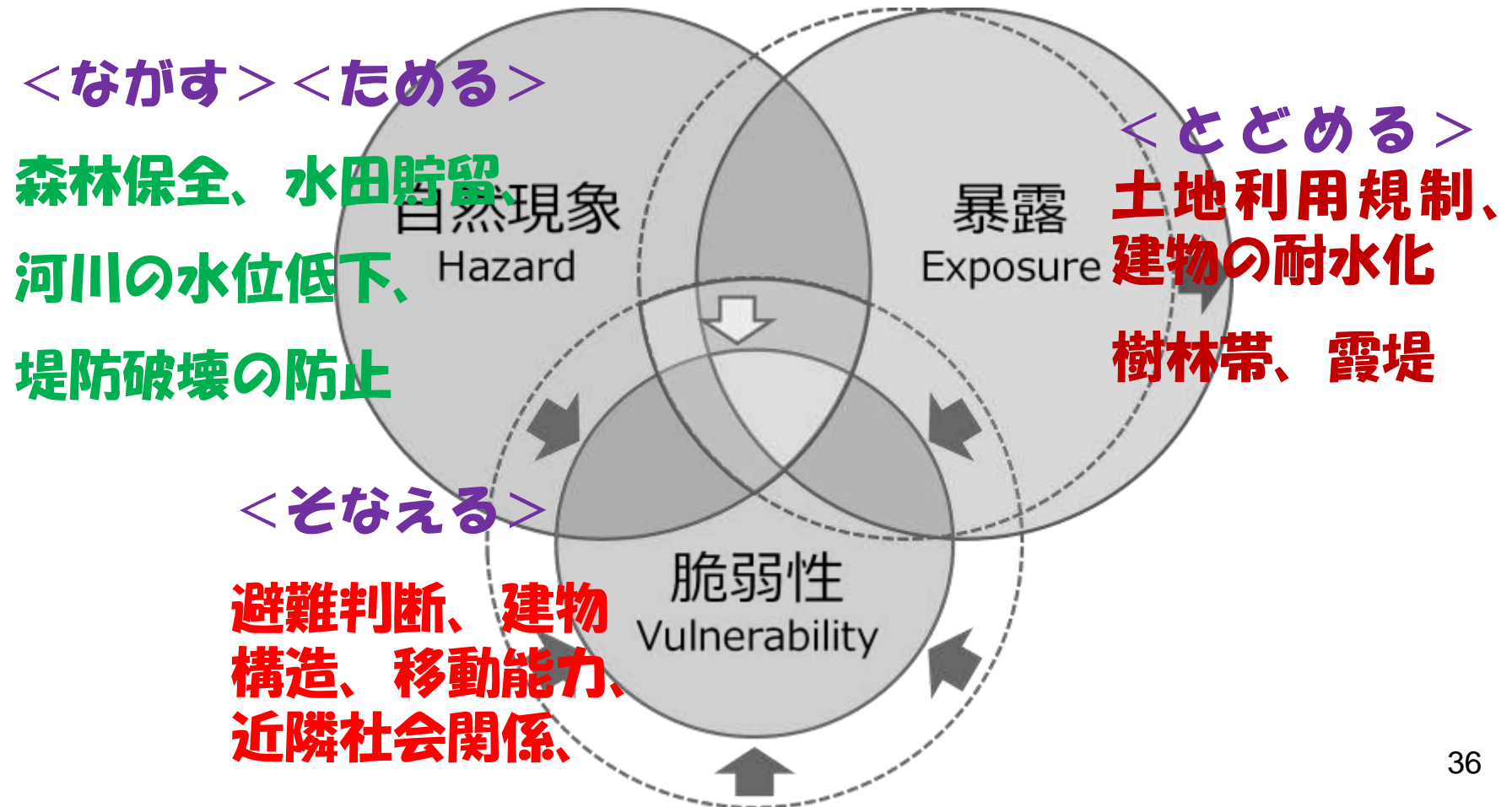
# 水害犠牲者発生背景と 流域治水での対策

## 水害犠牲者発生背景の構造的背景と流域治水の関係



# 災害リスクを低減するアプローチ

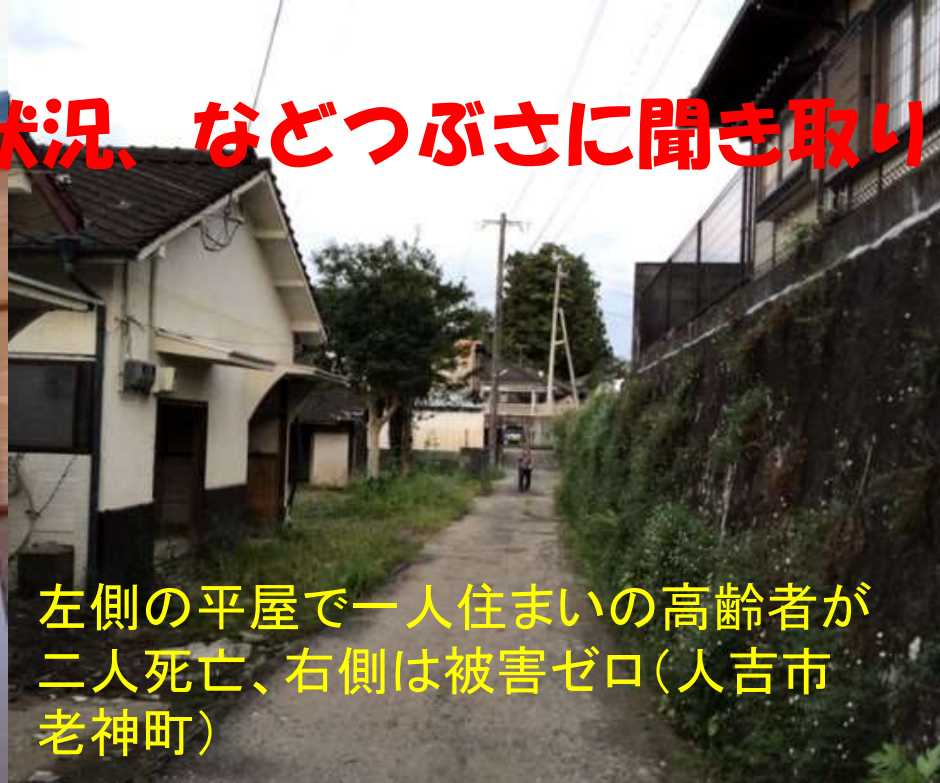
環境省自然環境局：生態系を活かした防災減災に関する考え方（2015）



# 溺死者一人ずつ住宅、避難状況、などつぶさに聞き取り



天井まで一気に浸水、夫が妻をささえて天井に息抜きの穴、壁に穴、夫は妻をささえて溺死(球磨村神瀬)



左側の平屋で一人住まいの高齢者が二人死亡、右側は被害ゼロ(人吉市老神町)



(早朝一気に、川から水があがり、奥さんが仏壇の前で溺死。(芦北町: 笹瀬))



20年前に2メートルかさ上げ、まさか浸水するとは！8名溺死(球磨村神瀬)

# 溪流部では二階家が二軒、八代海まで家ごと流出(瀬戸石ダムの堰上げ影響?)



2020年10月2日



2020年12月7日



**50名溺死被害**

**高齢者施設**

**千寿園 14名死亡**

- ・2000年に水田に立地した球磨村唯一の高齢者施設(介護度4.5)、平屋、事務室のみ二階
- ・昭和19年に上流で水害あり
- ・昭和22年航空写真には学校以外の施設なし
- ・2021年7月4日、宿直5人が近隣からの応援者ととともに、65人の入居者を二階へ避難(51名避難)、14名は助けきれず
- ・早朝7時過ぎに本流ではなく支流の小川から浸水開始
- ・8時までには多くが溺死か？



昭和22年



現代

# 溺死者の居住地と溺死推定時刻（球磨村渡地区千寿園14名）



（2020年7月4日、NHKTV）

全体が一階建て、一部だけ二階

65名入所者（介護度4あるいは5）の内14名が二階に逃げられず溺死

ストレッチャーと車イスの人ばかり

亡くなった14名はすべて認知症

溺死推定時刻は8時前後



（2020年7月26日）



この木材はどこから？

（2020年7月26日）



# 渡地区の小川上流部の山林伐採 (熊本県にはクマモンはいいてもクマはいません。 九州全体からクマは絶滅。50年前の奥山広葉 樹破壊、スギ・ヒノキの拡大造林により絶滅！)



渡地区の木材の源は  
小川上流部。上流大槻  
集落内の河川はコンク  
リート化(2021年5月1  
日)

# 人吉市内では万江川・山田川・御溝 水路が凶器となし溺死を起こす！

黄色点は死者発生場所、道路や小水路に濁流が！



御溝取り入れ  
口は万江川中  
流部から



- ・浸水深浅い新興住宅地での溺死←支流、水路氾濫
- ・浸水深深いところでのゼロ死者←旧集落での避難徹底  
呼びかけ、日常的訓練



「国土地理院浸水推定図(2020年7月4日13時作成)に犠牲者位置をプロット

# 球磨川水害・何が生死を分けたのか？ (住宅条件と移動力)

八代市(4名)	平屋で溺死・流出	4名 (ひとり暮らし3名)
芦北町(1名)	平屋で溺死	1名
球磨村(25名)	平屋で溺死・流出	18名 (ひとり暮らし2名)
	(内、高齢者施設・千寿園14名)	
	二階屋で家ごと流出	5名
	二階屋で二階で溺死	2名 (ひとり暮らし1名)
人吉市(20名)	平屋で溺死・流出	7名 (ひとり暮らし5名)
	二階屋だが一階で溺死	5名 (ひとり暮らし2名)
	避難中・通勤中	8名

- 平屋で溺死：30名
- 二階屋で家ごと流出：5名
- 二階屋で一階で溺死：5名
- 二階屋で二階で溺死：2名
- 避難中・通勤中：8名 (ペット配慮 二件)
- (ひとり暮らし 36名中13名)

合計 50名

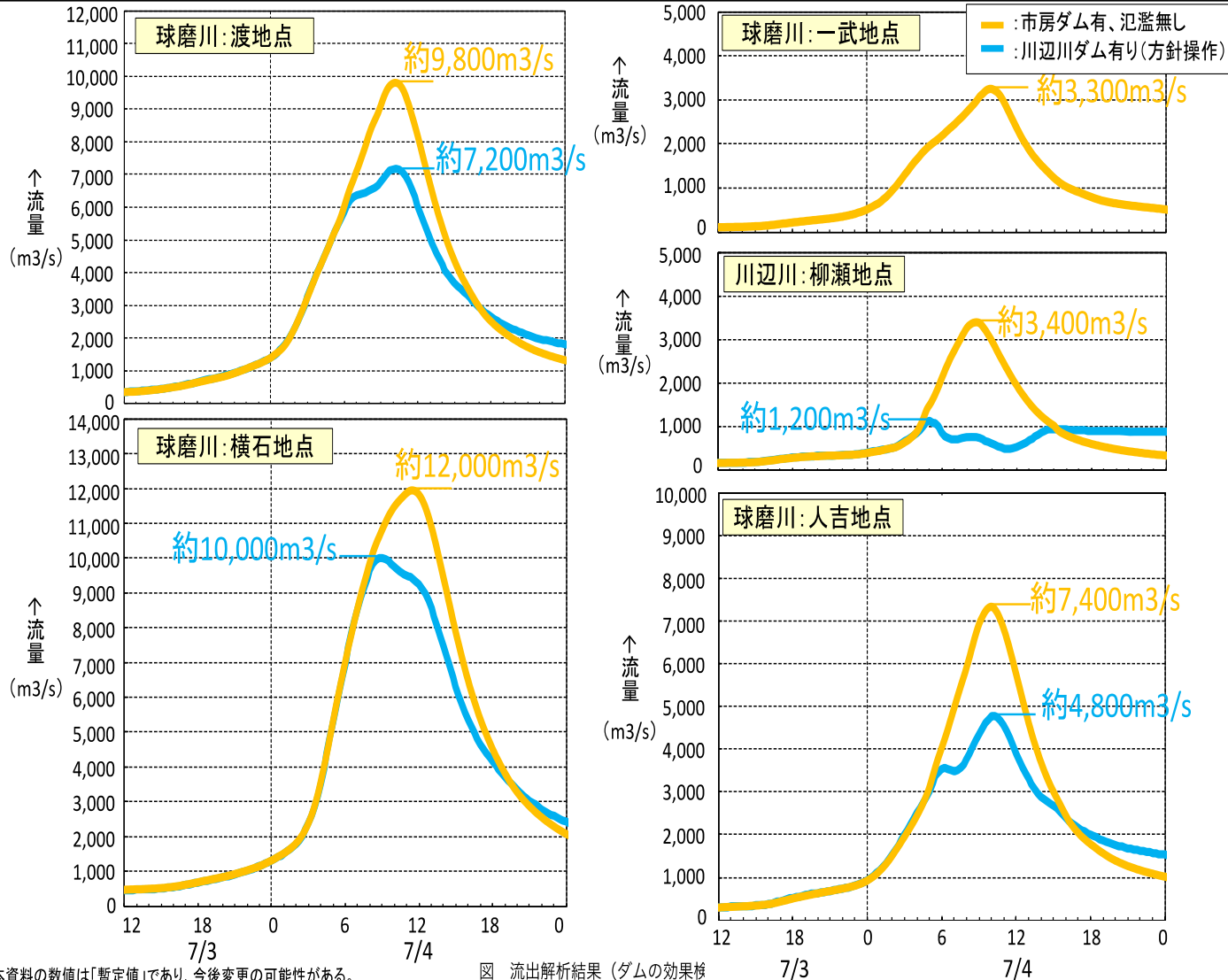
# 2020年10月6日、球磨川豪雨 検証委員会での川辺川ダム効果公表

浸水域6割減少  
3m以上の浸水域  
9割減少と発表

→  
本当にこれだけの被害がふせげるのか？



○仮に川辺川ダム(貯留型)が存在した場合を想定し、従来から検討してきた貯留型ダムでの洪水調節ルール(河川整備基本方針検討時のルール)を用いて、川辺川ダム洪水調節後の主要地点の流量の時間的な変化を推定すると、以下のとおりとなる。

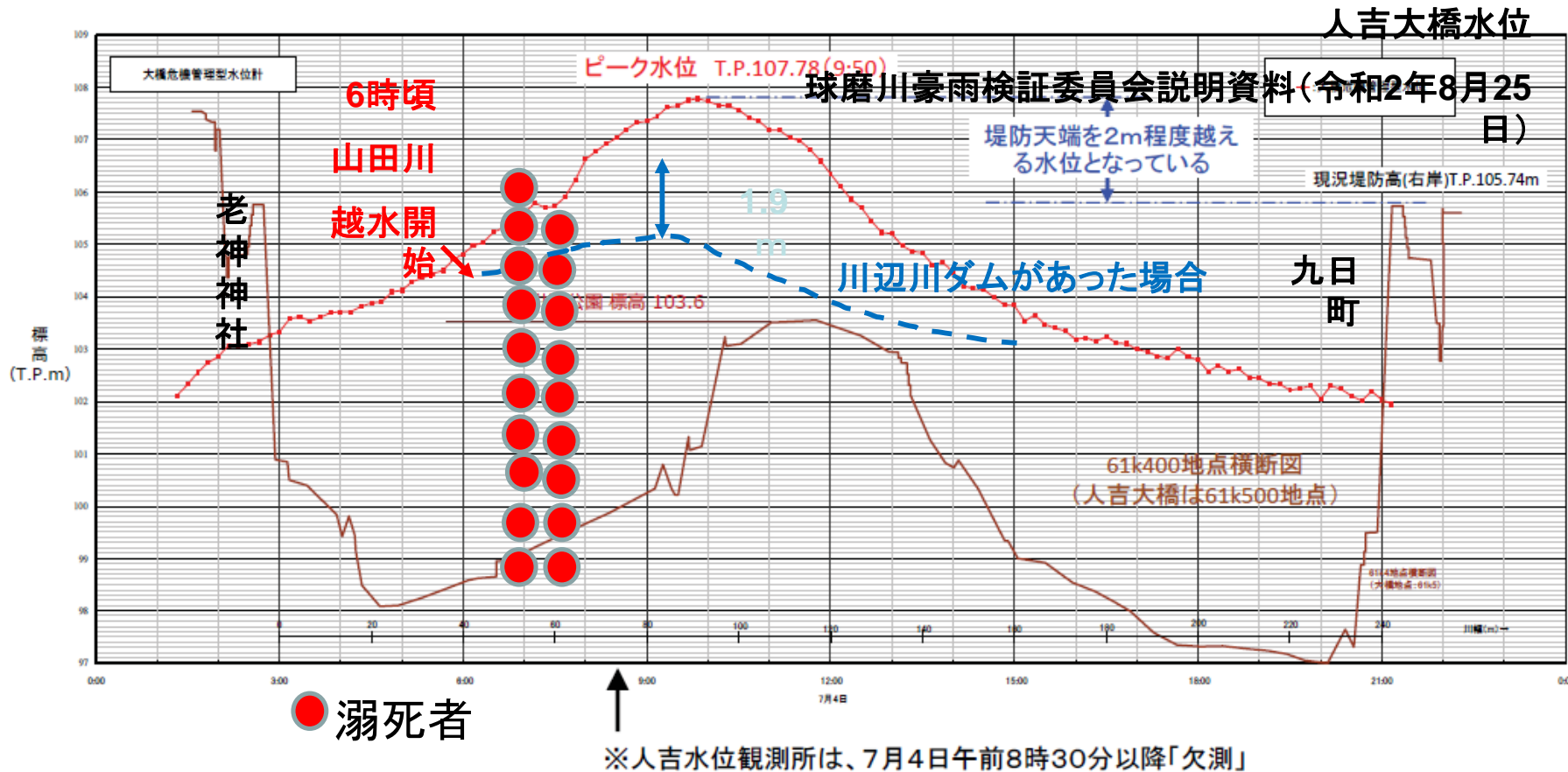


※本資料の数値は「暫定値」であり、今後変更の可能性がある。

図 流出解析結果(ダムの効果核)

### 3. 浸水範囲・氾濫形態(人吉大橋危機管理型水位計の観測値)

- 人吉水位観測所の下流約700mに位置する人吉大橋に平成31年1月に設置した洪水時のみ水位観測を行う危機管理型水位計は、ピーク水位T.P.107.78mを観測した。
- 人吉大橋付近では、右岸堤防を2m程度越える水位となっていた。



(「第2回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会説明資料」69頁) を元に作成。緒方紀郎協力

# 各地域別犠牲者の推定溺死時間

- 八代市坂本町4名（午前7時～8時頃）（ピーク12時）
- 芦北町 1名（午前8時頃）
- 球磨村 25名（午前7時～8時頃）（ピーク12時）  
（うち千寿園14名）
- 人吉市 20名（午前7時～8時頃）（ピーク11時）

→球磨川本流がピーク流量に達する3～5時間前に溺死発生、支川や小河川、水路の氾濫早い。

→50名の溺死者のうち、川辺川ダムができていたら「命が救われたと強く推測」できる人はごく少数といわざるを得ない！（今後の水量データが補強されたら判断は変わる可能性あり）。



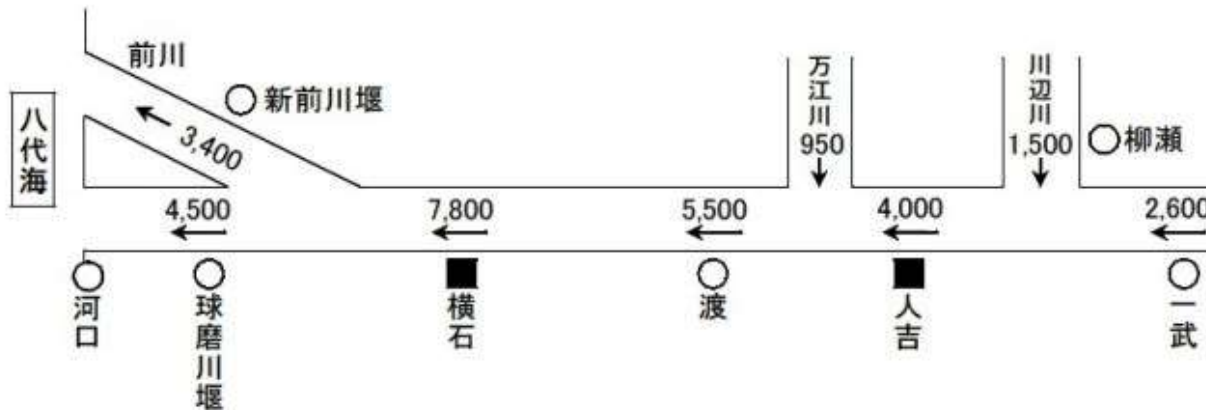
# 河川法で規定された 球磨川河川整備計画計画高水流量

→ 定量治水の限界

→ 現河川法改正必要

オランダ、フランス方式の採用

球磨川計画高水流量図 (単位:  $\text{m}^3/\text{s}$ )



→ 2021年7月4日の球磨川本流人吉地点推定水量は、国土交通省推測が7400トン、京大角教授7600トン、京大今本名誉教授9000トン。いずれにしろ計画規模4000トンをはるかにこえている。これは「**超過洪水**」！河川の中に閉じ込めきれない。「想定外」と逃げていいのか？だからこそあふれることを前提に地域づくり、街づくりが必要！

# 2020年11月19日 蒲島知事が「流水型(穴あき)ダム」 容認・国土交通省へ

2020年11月19日

NHKTV



2020年11月18日 熊日新聞



# 2020年7月国も流域治水に方針転換 2021年2月関連法案の閣議決定、4月28日 に通常国会通過、同時に国土強靱化のハード 対策強化(同時にダムも推進)



「流域治水」に転換

石井 啓一 国土強靱化担当大臣

防災5か年対策  
公明の主張反映

災害の激甚化に対応

老朽インフラ修繕 予防型で崩壊し

国土強靱化担当大臣 石井 啓一

国土強靱化基本計画(2021年度版)の閣議決定が、2021年2月25日、閣議決定された。この中で、国土強靱化基本計画(2021年度版)の「国土強靱化基本方針」が示された。この中で、国土強靱化基本方針の「国土強靱化基本方針」が示された。この中で、国土強靱化基本方針の「国土強靱化基本方針」が示された。



# 球磨川50名溺死、どうやったら命が救えたのか ？ 個人的な溺死要因にみる4つの脆弱性

- ① 避難判断をめぐる個人の認知状況(ペットの有無)
- ② 住宅事情(平屋か二階建か)  
平屋で30名溺死(縦方向の避難困難)  
二階屋だが一階で溺死(リスク認知と移動力)
- ③ 当人のリスク認知力と移動力  
高齢・認知症・足腰の移動困難  
浸水すると戸がうごかず二階に移動困難
- ④ 家族・近隣との社会関係  
避難呼びかけがない、あっても応じない  
孤立する高齢者のリスク

**(4)**

**球磨川水害こそ、**

**住民主体の流域治水の必要性を証明**

**本流上流部のダム建設では**

**救えない命がたくさんある**

**ことが証明された**

# 球磨川水害こそ、住民主体の「流域治水」の必要性を強く提示

(1) 球磨川本流の水位をさげて、堤防を強化する

→「ながす」対策: 河川の掘削、堤防強化(耐越水堤防)

(2) 球磨川本流以外の支流や山間部からの洪水ふせぐ

→「ためる」対策: 水田、森林整備、ゆっくり流れる河川

(3) 浸水地域に住宅や福祉施設をつくらない

→「とどめる」対策: 土地利用規制、かさ上げ、建物(二階建)

(4) 二階家の一階で溺死

→「そなえる」対策: 要援護者(高齢者、障害者)の避難補助

(5) 自宅や施設で溺死をふせぐ対策

→「遊び・親しむ」対策: 昔は舟、今はカヤック、ボート、ライフジャケット  
普段から「川遊び」「川になじむ」「水への親しみ」を!

# 水害被害にあっても球磨川を恨まない (熊日新聞2020年8月13日)

人吉球磨、そして八代・芦北を中心に甚大な被害をもたらした7月の熊本豪雨。県内で65人が死亡、2人が行方不明となった。人吉総局管内の人吉市と球磨村だけでも、球磨川の氾濫で45人の犠牲者を出し、多くの家屋が被災した。倒壊した家屋や波打つようにゆがんだ肥薩線の線路、崩落した橋…。1カ月をすぎても目を覆いたくなるような風景が今も残る。

熊日はこの間、多くの記者が災害現場を訪れて取材。紙面を通して住民の声や被災地の現状を読者に伝えている。その取材の中で、不思議に思うことがある。それは、被災者たちが異口同音に「球磨川は悪くない」と球磨川をかばう言葉を口にするのだ。

球磨川から人吉市街地に水があふれ出す様子を目の当たりにした時、そして土砂降りの雨の中、水に没した球磨村渡地区を見た時、正直私は「球磨川は恐ろしい」と思った。でも、取材で話を聞いた人たちは違った。

知人が球磨川の濁流にのまれ、亡くなったという女性は、その死を悲しみながらも「球磨川のことをどうしても恨めない。憎いと思えないんです」と声を押し殺した。店舗も自宅も濁流と汚泥でめちゃくちゃにされた男性も「水害は怖い、球磨川は怖くないし、球磨川は悪くない。球磨川への思いと水害は全く別。今回は俺たちが油断しとったって」と苦笑交じりに話した。

## 球磨川への思い 受け止めたい 人吉総局長・吉田紳一

そんな被災者たちが「悲しい」と感じたのが、球磨川を「暴れ川」と表現した報道だったという。「暴れ川」という表現を「とてもつらい」と言った男性は、「身内の方が亡くなられた人たちは今は複雑な気持ちだと思いますが…」と断った上で、「球磨川は昔から流域の住民に多くのものを与え続けてきています。地域や人々の生活を支えてくれた存在であり、時に癒やしの場でもあるんです。球磨川が悪者のように言われるのはつらい」と訴えた。

地震や台風、そして今回のような豪雨…。近年、全国各地で大災害が相次いでいる。災害の状況は似ていても、その場所のできる被災者の思いはさまざま。それぞれの被災地に、その土地の自然と向き合い、生きてきた人々の思いや暮らしがある。災害報道でないがしろにできない大切なものを今回、「球磨川」が教えてくれた気がしている。

発生から1カ月がすぎ、各メディアでも豪雨関連の報道が減少傾向にある。「被災者に寄り添う」。災害が起こると必ず耳にする言葉だ。記事を書き続けることが寄り添い方の一つかもしれない。ただ、その土地の人たちの身近な自然に対する敬意や歴史にも心を配りつつ記事を書くことが寄り添うためには大切だと感じている。まずは、地元の方たちの球磨川への思いをしつかりと受け止めたい。

# この水害は人災です。人間が川を自然をいじめすぎたのです！



2020年7月26日 人吉旅館堀尾里美さんの言葉





# これからの水と人 「遠い水」を「近い水」に

- 身近な水辺を自分化できる愛着が育つ  
仕組みを求め
- 恵みの水、暴れる水 まるごとのかかわりを深め
- 小さなコミュニティの「再生」と「住民力」を高め
- 子どもたちの水への関心を育て
- 異世代、異文化をつなぎ、「共感する知」と「制御する知」の補いあう関係をつくる

# 普段から、川や水辺に親しもう！ 365日の水辺づくり、恵みの川と わざわざいの川、両方に親しみを！



# 清流とともに！！



「立野ダムによらない自然と生活を守る会」提供

**文明が進めば進むほど天然の暴威による災害  
がその劇烈の度を増す（寺田寅彦）**

**日本中どこでも水害リスクはゼロにはできない**

**ハード対策とソフト対策の多重防護**

**「命を守る流域治水政策」の実現は**

**子どもたちもふくめて**

**「川を自分たちのものに！」**

**ご清聴ありがとうございました。**

